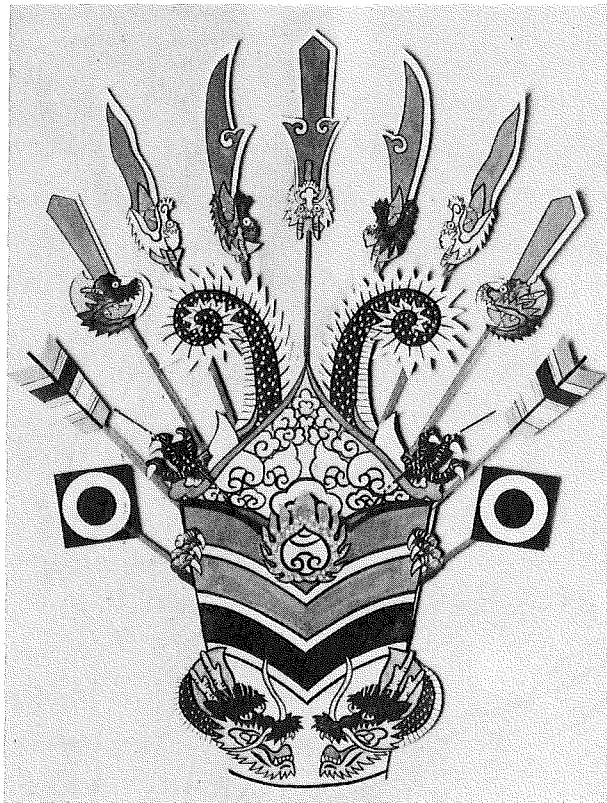


ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 19



1986

沖縄県立博物館

目 次

序	館長 大 城 宗 精
館の概要	
沿革	1
施設・設備	3
予算	5
組織	6
協議会委員会名簿・協議会開催状況	8
入館者数	
入館者数	9
県内小中高校入館一覧	11
展示活動	
常設展	12
特別展 グスク展	15
大嶺薫コレクション展	18
企画展	20
移動博物館	22
教育普及活動	
文化講座	24
刊行物	24
調査研究活動	25
収蔵資料	29
収蔵資料現在高	
昭和60年度収蔵資料	
昭和60年度新収蔵資料目録	
博物館所蔵・県国指定文化財一覧表	
その他の活動	
資料貸出	32
燻蒸	32
日誌（抄）	33
当館関係条例規則（抄）	38

※表紙写真 玩具「ヤカジ」

序

昭和60年度の事業の報告をいたします。

60年度は、二つの特別展がありました。グスク調査が活発に行われ、グスクの存在が多くの人々の関心を集めているなかで「グスク展—グスクが語る古代琉球の歴史とロマン—」が開催されました。今回はじめて奄美諸島から八重山諸島に至る地域のグスクを総括した展示を行い、シンポジウムをふくめ盛況でした。また、59年度に3,000点余の寄贈のあった大嶺薫コレクションをできるだけ多くの人々に紹介する目的で「大嶺薫コレクション展—美術工芸の美を求めて—」を開きました。

一方、内外に高く評価されている移動博物館は第9回を数え、伊是名島で開催しました。

寄贈の部では、日本画の具志堅聖児氏の作品20点をはじめとして、貴重な資料をいただきました。また、今回の収蔵資料には、北中城村のライカム米軍施設内の指令官宅にあった安里橋支柱4本と礎盤7点があり、これはデー司令官のご理解とご協力により県に返還されたものであり、感謝の意を表するしだいでもあります。

今後、皆様のご要望に対し充分に答えていくためには、まだまだ、多くの問題をかかえています。尚一層努力したいと思えます。

ご助言、ご協力をお願いいたします。

昭和61年7月

沖縄県立博物館長 大 城 宗 清

館の概要

沿革

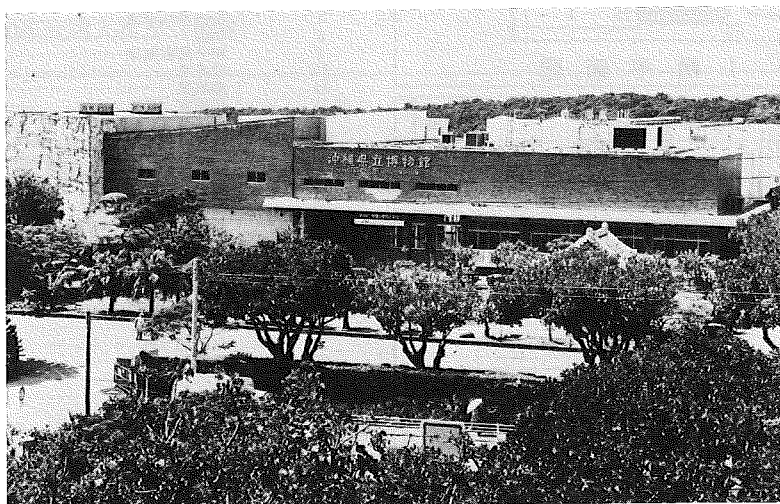
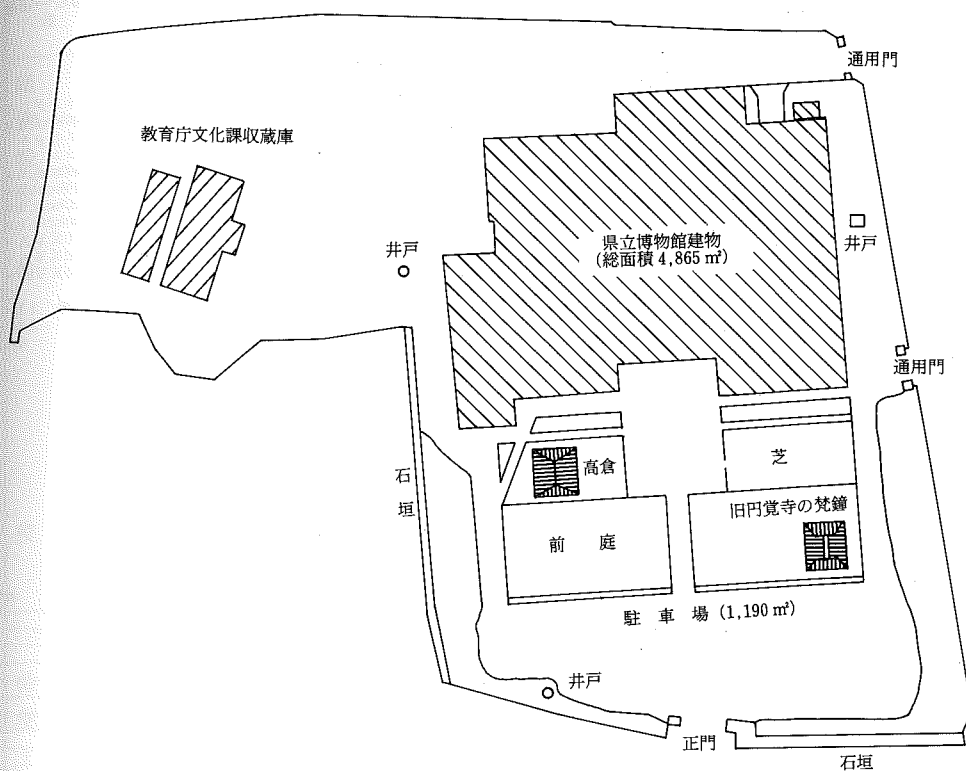
- 昭和20年（1945） 8月 米国海軍軍政府により残欠文化財が収集され、石川市宇東恩納に「沖縄陳列館」が設立される。
- 昭和21年（1946） 3月 首里で首里城周辺の廃墟から残欠文化財の収集活動が行われ、「沖縄郷土博物館」が設立される。
- 4月 沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称。館長に大嶺薫就任。
- 昭和22年（1947） 12月 首里市の沖縄郷土博物館は沖縄民政府に移管され「沖縄民政府立首里博物館」と改称。館長豊平良顕就任（1948年3月退職）。
- 昭和23年（1948） 8月 首里博物館館長に原田貞吉就任。
- 昭和28年（1953） 3月 東恩納博物館を首里博物館へ合併。館長に原田貞吉就任。大嶺薫は退職。
- 5月 首里博物館は首里当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。
- 昭和30年（1955） 5月 館長原田貞吉退職。
- 8月 館長山里永吉就任。
- 9月 首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称。
- 昭和33年（1958） 8月 館長山里永吉退職。
- 9月 館長金城増太郎就任。
- 昭和36年（1961） 12月 館長金城増太郎退職。
- 昭和37年（1962） 2月 館長大城知善就任。
- 昭和40年（1965） 首里大中町尚家跡土地購入。（面積111,246㎡・価格195,751^千円）
- 昭和41年（1966） 10月 米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建（3,294㎡1階365,000^千円〔1億2,816万円〕）の新館が落成移転。
- 11月 開館
- 12月 中央教育委員会規則第58号「琉球政府博物館管理規則」「琉球政府立博物館施設使用規則」、同59号で「琉球政府立博物館の職員の勤務時間及び勤務時間の割振りに関する規則」制定、入館料大人10仙、学生5仙、児童生徒2仙、団体2割引徴収決まる。
- 昭和42年（1967） 12月 「琉球政府立博物館運営協議委員会規則」制定。
- 昭和44年（1969） 3月 「琉球政府立博物館館報」創刊。
- 11月 館長大城知善退職。
- 12月 館長外間正幸就任。
- 昭和47年（1972） 5月 日本復帰にともない、館名「沖縄県立博物館」と改称。

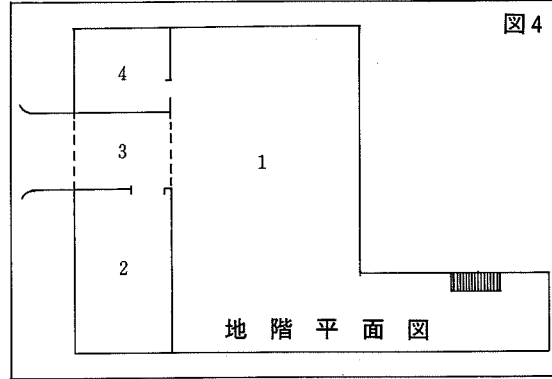
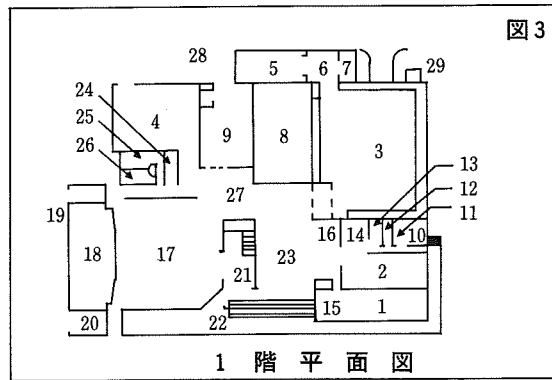
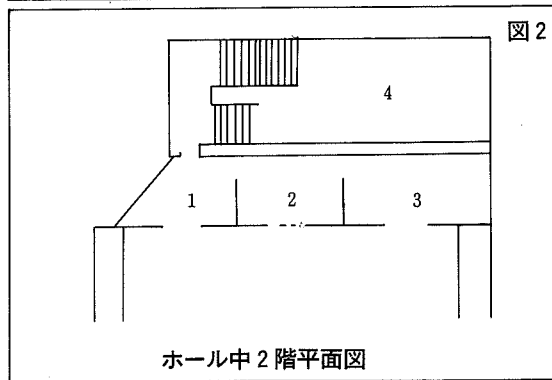
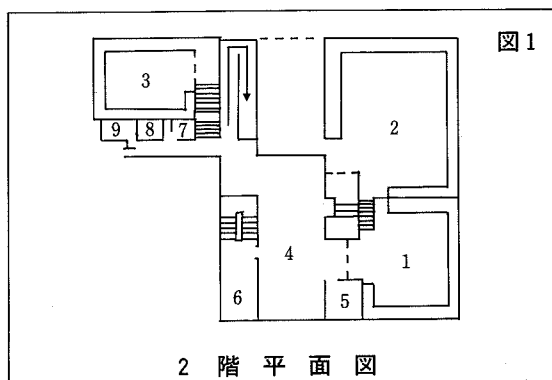
- 10月 「沖縄県立博物館運営協議会規則」制定。
- 昭和48年（1973）2月 国庫により1,571m²（102,484千円のうち25,621千円国庫）2階を増築。展示室が3室増える。
- 昭和50年（1975）3月 沖縄県立博物館紀要第1号創刊。
- 昭和51年（1976）4月 創立30周年記念事業挙行。
入館料一般50円を100円に、中小学生10円を20円に、特別企画展500円に改正。
- 昭和54年（1979）8月 空調・防災総替え工事2か年計画で着工、初年度は展示室のみ。
（1980年10月）
- 昭和55年（1980）1月12日 特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」ならびに「沖縄県立博物館名品展」開催。（2月3日まで）
- 2月 第1回移動博物館開催。（久米島具志川村、仲里村）
- 3月 「沖縄県立博物館総合調査報告書—粟国島（あぐにじま）」刊行。
- 11月1日 特別展「失われた生物たち—大恐龍展—」開催。（30日まで）
- 昭和56年（1981）3月30日 博物館法に基づき登録される。
- 4月1日 館長外間正幸退職、同日大城徳次郎就任。
- 10月17日 特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵—」ならびに「戦前の沖縄の写真展」開催。（11月28日まで）
- 昭和57年（1982）5月7日 自然展示、常設展を新たに設ける。
- 10月30日 特別展「熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化—」開催
（11月28日まで）
- 昭和58年（1983）4月1日 館長大城徳次郎勸奨退職、同日大城立裕就任。
- 11月8日 特別展「沖縄県・熊本県交流展『沖縄の美—風土と美術工芸—』」、会場：熊本県立美術館（12月11日まで）
- 昭和59年（1984）3月20日 「沖縄県立博物館資料査定委員会規則」制定。
- 昭和61年（1986）3月31日 館長大城立裕退職。
- 4月1日 館長大城宗精就任。

備考

- 1936年7月 沖縄県教育会附設として「沖縄郷土博物館」が首里城内北殿を使用して会館される。
- 1945年3～5月 沖縄戦で「沖縄郷土博物館」全焼。

施設配置図





●概 要

敷地面積	1 階及び講堂部	2,893	2 階	1,571	16,267㎡
建物面積	(㎡)		計		401
展示面積			1 階	632	4,865
			計	2 階	701
ロビー面積					1,333
収蔵庫面積					513
駐車場面積					677
庭園面積					1,190
空調機能力					1,612
					ヒートポンプ式チリングユニット
					125,000kcal/h×2機
					エアハンドリングユニット
					パッケージ型エアコン
					56,000kcal/h×1機
					28,000kcal/h×1機
					20,000kcal/h×2機
					8,400kcal/h×1機
変電室	電灯	1φ3W	30KVA×1機		
	電灯・動力	3φ4W	100KVA×1機		
	動力	3φ3W	250KVA×1機		
契約電力					235Kw
講堂	客席数				1 階434席
					2 階196席
					計630席

●室名と面積

2 階	室 番 号	室 名	面 積	㎡
	1	美術工芸展示室	265	
	2	民俗展示室	436	
	3	漆器収蔵庫	170	
	4	ロビー	257	
	5	空調室	29	
	6	ホール控室	59	
	7	化粧室(女)	6	
	8	化粧室(男)	11	
	9	空調室	12	
ホール中 2 階	1	調光室	17	
	2	映写室	19	
	3	音響効果室	25	
1 階	室 番 号	室 名	面 積	㎡
	1	事務室	115	
	2	資料室	96	
	3	歴史展示室	462	
	4	自然展示室	170	
	5	収蔵庫	120	
	6	荷解場	32	
	7	陶磁器収蔵庫	11	
	8	中庭	152	
	9	厨子臺収蔵庫	91	
	10	宿直室	11	
	11	湯沸室	8	
	12	化粧室(男)	7	
	13	化粧室(女)	9	
	14	図書室	28	
	15	館長室兼応接室	28	
	16	模型コーナー(首里城)	18	
	17	講堂(客席)	428	
	18	ステージ	116	
	19	控室	32	
	20	控室	37	
	21	講堂出入口	14	
	22	守衛室	14	
	23	ロビー	256	
	24	倉庫	14	
	25	化粧室(女)	21	
	26	化粧室(男)	17	
	27	売店	10	
	28	空調室	11	
	29	ポンプ室	5	
地 室	室 番 号	室 名	面 積	㎡
	1	収蔵庫	285	
	2	冷房機室	58	
	3	荷解場	28	
	4	変電室	30	

予 算

昭和60年度博物館費（決算）

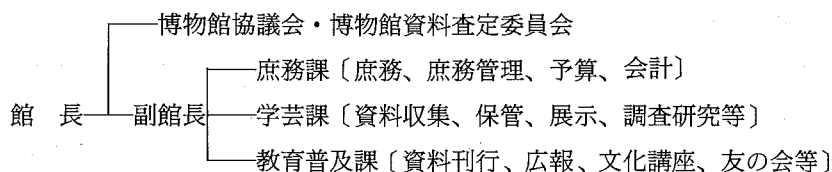
		博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報	酬	128,000	0	128,000
賃	金		129,920	129,920
報	償 費	202,700	800,000	1,002,700
旅	費	939,640	844,750	1,784,390
	普 通 旅 費	939,640	844,750	1,784,390
需	用 費	20,419,698	7,511,020	27,930,718
	消 耗 品 費	573,170	583,930	1,157,100
	燃 料 費	34,575	0	34,575
	(食 料 費)	82,500	27,500	110,000
	印 刷 製 本 費	763,000	5,119,590	5,882,590
	光 熱 水 費	17,300,783	0	17,300,783
	修 繕 費	1,665,670	1,780,000	3,445,670
役	務 費	1,431,512	3,441,530	4,873,042
	通 信 運 搬 費	824,130	3,254,000	4,078,130
	手 数 料	587,912	0	587,912
	保 險 料	19,470	187,530	207,000
委	託 料	10,597,000	2,799,040	13,396,040
	使用料及び賃借費	66,910	0	66,910
	工 事 請 負 費	2,687,000	0	2,687,000
	備 品 購 入 費	8,195,200	0	8,195,200
	負担金補助及交付金	64,000	0	64,000
公	課 費	18,900	0	18,900
合	計	44,750,560	15,526,260	60,276,820

昭和60年度歳入状況（決算）

科目名	内訳	常 設 展	特 別 展
博 物 館 使 用 料		5,652,446	3,456,750
建 物 使 用 料		35,360	0
小	計	5,687,806	3,456,750
合	計	9,144,556	

組 織 (昭和61年 4 月 1 日現在)

(1) 機 構



(2) 職員構成

職 名	氏 名	担 当 業 務
館 長	大 城 宗 清	博物館業務の総理に関すること。
副 館 長	宜 保 榮治郎	館長補佐、庶務課、学芸課、教育普及課との調整に関すること。
庶 務 課 長	村 山 勝 信	庶務、施設管理、予算、事業に関すること。
主 事	玉代勢 理 子	予算決算、会計事務に関すること。
主 事	上 間 尚 子	庶務課、歳入、事務に関すること。
技 師	平 田 典 夫	施設管理に関すること。
学 芸 課 長	上江洲 均	学芸業務の統轄及び民俗資料に関すること。
学 芸 員	上江洲 敏 夫	博物館資料の受け入れ、整理分類及び歴史資料に関すること。
充 指 導 主 事	津波古 聡	調査研究、保存修理、写真撮影、沖博協及び美術工芸資料に関すること。
教育普及課長	知 念 勇	教育普及業務の統轄及び考古資料に関すること。
主任学芸員	日 越 国 昭	教育普及、移動博、沖博協及び自然に関すること。
学 芸 員 補	与那嶺 一 子	教育普及、保存修理及び美術工芸に関すること。

非 常 勤 職 員 (委託業務)	氏 名	担 当 業 務
教育普及補助	小 野 まさ子	解説員
受 付	西 平 節 子	受付、一階ロビー監視に関すること。
監 視	東 美智子	主として第一展示室の監視に関すること。
監 視	照 屋 カ ツ	主として第二展示室の監視に関すること。
〃	西 平 勝 子	主として第三展示室と二階ロビーの監視に関すること。
〃	喜屋武 トシ子	主として第四展示室の監視に関すること。

博物館友の会職員	氏 名	担 当 業 務
博物館友の会	池宮城 啓 子	博物館友の会の庶務会計。

(3) 人事異動

館 主 館 主	長	大 城 宗 清	県立図書館から	61年 4 月 1 日付
	事	玉代勢 理 子	県立図書館から	61年 4 月 1 日付
	長	大 城 立 裕	定年退職	61年 3 月31日付
	事	仲 里 富 代	高等学校教育課へ	61年 4 月 1 日付

博物館協議会名簿及び協議会開催状況

(1) 博物館協議会名簿

	委 員 名	資 格	住 所
学 職 経 験 者	安次富 長 昭 (会 長)	琉球大学教授	那覇市首里石嶺町3-117-10
	野 原 朝 秀	琉球大学教授	南風原町字新川30
	外 間 正 幸	元県立博物館長	那覇市首里当蔵町3-22-7
	外 間 政 彰	元那覇市立図書館長	那覇市松尾2-2-6
学 校 教 育	酒 井 善 治	沖縄県小学校長会長	那覇市識名645 識名小学校
	米 田 精 仁	沖縄県中学校長会長	那覇市樋川2-8-1 神原中学校
	馬 上 義 雄	沖縄県高等学校長会長	那覇市鏡原町22-1小禄高等学校
社 会 教 育	赤 嶺 千 寿	沖縄婦人連合会長	那覇市大道172沖縄婦人連合会
	玉 寄 永 哲	沖縄県子ども育成連絡協議会	那覇市末吉町2-231
	新 城 紀 秀	沖縄県社会教育委員会連絡協議会 長	石川市字石川2666-2

(2) 協議会開催状況

沖縄県立博物館協議会
会長 安次富 長 昭 殿

諮問事項

新館構想について

沖縄県教育委員会では、沖縄県立博物館を新築することで計画を進めているが、そのことについて諮問する。

昭和61年3月13日
沖縄県立博物館
館長 大城立裕

沖縄県立博物館長
大城立裕 殿

検討事項にたいする意見

館長の経緯説明のなかに規模として9,000㎡、昭和64年度開館予定、調査費等の説明がありましたが、当協議会として提出された参考資料も含めて検討した結果次のようにまとめました。

新館には、歴史・考古・自然史・工芸・美術機能を置き、旧館には民俗資料機能を残したほうが効率的と思われる。

なお、現在は未だ建設用地が確定せず流動的だと言う状況から考えることの件は敷地が決定した段階で引き続き検討する必要があると思われる。

昭和61年3月14日
沖縄県立博物館協議会
会長 安次富 長 昭

入館者数

入館者数 (昭和60年 4月1日～昭和61年 3月31日)

月別入館者数

	個 人				団 体				総 計				開館 1 日				
	大	人	高 大 生	小 中 生	計	大	人	高 大 生	小 中 生	計	大	人	高 大 生	小 中 生	計	日数	平均
60年 4 月	(12)				(12)						(12)						
	4,220		389	589	5,198	976		623	557	2,165	5,196		1,021	1,146	7,363	24	307
	(20)				(20)	(139)			(69)	(208)	(159)			(69)	(228)		
5 月	3,860		82	244	4,186	1,190		872	692	2,754	5,050		954	936	6,940	25	278
6 月	(4)				(4)	(147)				(147)	(151)				(151)		
	2,915		214	248	3,377	1,023		1,364	749	3,136	3,938		1,578	997	6,513	20	326
	(23)				(23)	(272)				(272)	(295)				(295)		
7 月	4,070		545	748	5,363	470		461	338	1,269	4,540		1,006	1,086	6,632	26	255
8 月	(6)				(6)	(151)		(2)	(95)	(248)	(157)		(2)	(95)	(254)		
	6,565		1,014	2,232	9,811	432		142	596	1,170	6,997		1,156	2,828	10,981	27	407
	(5)				(5)	(59)		(8)	(24)	(91)	(64)		(8)	(24)	(96)		
9 月	2,670		274	231	3,175	421		376	191	979	3,091		641	422	4,154	23	181
10 月	(7)				(7)	(162)			(18)	(180)	(179)			(18)	(197)		
	2,260		73	202	2,535	484		787	1,374	2,645	2,744		860	1,576	5,180	17	305
	(392)			(309)	(701)				(381)	(381)	(392)			(690)	(1,082)		
11 月	6,420		308	785	7,513	1,628		2,270	4,129	8,027	8,048		2,578	4,914	15,540	25	622
12 月	(57)			(30)	(87)	(143)				(143)	(200)				(200)		
	1,829		543	366	2,738	415		3,078	61	3,554	2,244		3,621	427	6,292	16	393
	(11)				(11)	(57)				(57)	(68)				(68)		
61年 1 月	2,770		90	422	3,282	1,404		2	500	1,906	4,174		92	922	5,188	22	236
2 月	(7)				(7)	(97)			(3)	(100)	(104)			(3)	(107)		
	3,900		192	229	4,321	1,597		157	627	2,381	5,497		349	856	6,702	18	372
	(38)				(38)	(286)		(20)	(201)	(507)	(324)		(20)	(201)	(545)		
3 月	5,539		809	653	7,001	1,638		3,345	758	5,741	7,177		4,154	1,411	12,742	22	579
計	(592)			(339)	(931)	(1,513)		(30)	(791)	(2,334)	(2,105)		(30)	(1,130)	(3,265)		
	47,018		4,533	6,949	58,500	11,678		13,477	10,572	35,727	58,696		18,010	17,521	94,227	265	356

曜日別入館者数

	個 人				団 体				総 計				1 日 平 均			
	大	人	高 大 生	小 中 生	計	大	人	高 大 生	小 中 生	計	大	人	高 大 生	小 中 生	計	個 人 団 体 計
火	5,941		643	784	7,368	1,267		1,567	1,284	4,118	7,208		2,210	2,068	11,486	42
水	6,193		532	670	7,395	1,366		1,588	1,380	4,334	7,559		2,120	2,050	11,729	43
木	7,832		909	828	9,569	2,130		3,261	4,063	9,454	9,962		4,170	4,891	10,023	44
金	7,494		775	818	9,087	1,813		3,364	1,865	7,042	9,307		4,139	2,683	10,129	46
土	7,837		950	1,109	9,896	2,522		2,456	1,582	6,560	10,359		3,406	2,691	16,456	45
日	11,721		724	2,740	15,185	2,580		1,241	398	4,219	14,301		1,965	3,138	19,404	45
計	47,018		4,533	6,949	58,500	11,678		13,477	10,572	35,727	58,696		18,010	17,521	94,227	265

団体入館者数 (常設展)

	県 内								県 外								国 外								総計				
	大	人	高 大 生	小 中 生	計		大	人	高 大 生	小 中 生	計		大	人	高 大 生	小 中 生	計												
年	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員			
月																													
60年	4月	4	106	2	57	4	503	10	666	23	785	5	575	4	8	32	1,368	5	85			2	46	7	131	49	2,165		
	5月	5	379	2	44	8	572	15	995	18	797	4	828	1	57	23	1,682	3	14			3	63	6	77	44	2,754		
	6月	11	425	1	39	9	686	21	1,150	16	587	7	1,325		23	1,912	2	11			2	63	4	74	48	3,136			
	7月	6	239			5	263	11	502	5	231	4	461	3	75	12	767									23	1,269		
	8月	9	86			8	203	17	289	9	261	3	139	5	384	17	784	3	85	1		3	1	9	5	97	39	1,170	
	9月					1	191	1	191	8	376	3	367		11	743	1	45						1	45	13	979		
	10月	2	42	2	66	10	1,242	14	1,350	13	379	4	721	1	98	18	1,198	3	63			1		34	4	97	36	2,645	
	11月	17	805	20	1,541	16	4,131	53	6,477	23	1,060	5	951		28	2,011											81	8,488	
	12月	2	64	1	32	1	59	4	155	4	114	12	2,824		16	2,938											20	3,093	
	61年	1月	8	369			3	494	11	863	23	1,035	1	2	1	6	25	1,043										36	1,906
		2月	5	165			5	627	10	792	33	1,432	2	157		35	1,589										45	2,381	
		3月	7	144	1	14	10	650	18	808	29	1,486	12	3,331	6	94	47	4,911	1	8			1		14	2	22	67	5,741
計	76	2,824	29	1,793	80	9,621	185	14,238	294	8,543	62	11,681	21	722	287	20,946	18	311	1		3	10	229	29	543	501	35,727		

特別展「グスク」展入館者数（昭和60年11月1日～12月1日）

	個 人				団 体				招 待		無 料	総 計
	一 般	高大生	小中生	計	一 般	高大生	小中生	計	招 待	引 率		
11月1日（金）	225	7	8	240	23	31	354	408	35	21	38	742
2日（土）	257	5	64	326	30	0	115	145	17	15	7	510
3日（日）	529	22	193	744	149	0	26	175	0	7	13	939
4日（月）												
5日（火）	159	12	5	176	56	6	452	514	59	23	0	772
6日（水）	181	5	2	188	48	0	147	195	12	5	4	404
7日（木）	241	9	3	253	0	216	467	983	31	30	1	998
8日（金）	299	18	12	259	113	0	0	113	3	0	15	390
9日（土）	223	4	17	244	30	0	0	30	0	0	0	274
10日（日）	399	9	106	514	97	0	8	105	11	0	22	652
11日（月）												
12日（火）	178	12	2	192	50	50	45	145	9	4	1	351
13日（水）	208	7	2	217	45	0	391	43	11	0	0	707
14日（木）	254	4	19	277	52	31	269	352	31	13	11	684
15日（金）	187	4	3	194	51	386	155	592	2	22	9	819
16日（土）	211	10	26	247	140	22	17	179	2	0	45	473
17日（日）	365	30	110	505	32	0	6	38	0	0	23	566
18日（月）												
19日（火）	210	5	11	226	0	204	34	238	12	22	0	498
20日（水）	165	2	1	168	103	0	274	377	35	7	11	598
21日（木）	297	1	3	301	154	0	155	309	19	10	3	642
22日（金）	284	0	15	299	0	243	128	371	44	25	0	739
23日（土）												
24日（日）	515	38	134	687	164	28	7	199	4	2	23	915
25日（月）												
26日（火）	153	6	1	160	64	76	178	318	4	7	3	492
27日（水）	170	8	0	178	79	37	0	116	18	1	7	320
28日（木）	260	30	4	294	39	211	383	633	40	20	1	988
29日（金）	197	11	11	219	25	0	190	215	35	11	4	484
30日（土）	323	49	33	405	84	729	328	1,141	69	48	2	1,665
12月1日（日）	629	46	209	884	237	222	2	461	57	0	30	1,432
計	7,049	354	994	8,397	1,865	2,492	4,131	8,488	592	304	273	18,054

特別展「グスク」展曜日別入館者数

	個 人				団 体				總 計					1 日 平 均		
	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計		個 人	団 体	計
火	700	35	19	754	170	336	709	1,215	870	371	728	1,969	4	189	304	528
水	724	22	5	751	275	37	812	1,124	999	59	817	1,875	4	188	281	507
木	1,052	44	29	1,125	245	458	1,274	1,977	1,297	502	1,303	3,102	4	281	494	828
金	1,122	40	49	1,211	215	660	827	1,699	1,334	700	876	2,910	5	242	340	635
土	1,014	68	140	1,222	284	751	460	1,495	1,298	819	600	2,717	4	306	374	731
日	2,437	145	752	3,334	679	250	49	978	3,116	395	801	4,312	5	667	196	901
計	7,049	354	994	8,397	1,865	2,492	4,131	8,488	8,914	2,846	5,125	16,885	26	323	326	694

移動博物館入館者数

	小 人	大 人	団 体	合 計
6月8日（土）	20	70	280	370
9日（日）	44	81		125
合 計	64	151	280	495

沖縄県内小・中・高校博物館見学一覧（昭和60年4月1日～昭和61年3月31日）

小学校

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	12	城北小学校 240名	10	18	津嘉山小学校 122名	11	20	与那原東小学校3年 131名
	20	松川小学校 235名		〃	鏡原小学校 26名		〃	安慶田小学校5年 176名
5	2	与那原小学校 151名	11	1	瀬喜田小学校6年 20名	21		名護小学校 153名
	〃	与那原東小学校 143名		〃	伊平屋小学校6年 19名	22		松田小学校6年 35名
	19	城辺小学校 41名		〃	嘉芸小学校 35名		〃	羽地小学校6年 94名
	22	与儀小学校 34名	2		三原小学校 27名		〃	稲田小学校6年 21名
	26	久松小学校 34名		〃	漢那小学校6年 15名	24		開南小学校 17名
	29	伊良部小学校 90名		〃	屋部小学校6年 59名	26		西原小学校 178名
	30	清水小学校 54名		〃	与儀小学校 31名	28		大宮小学校 214名
6	1	砂川小学校 41名	5		伊江小学校 50名		〃	浦城小学校5名 199名
	〃	西辺小学校 31名		〃	兼次小学校6年 36名	30		城東小学校6年 210名
	6	宮原・西辺小学校 53名	6		坂田小学校4年 114名		〃	辺土名小学校 44名
	7	狩俣小学校 21名		〃	百名小学校 45名		〃	真嘉比小学校 165名
	8	佐良浜小学校 111名	7		与那城小学校 230名	12	12	久辺小学校 59名
	15	宮良小学校 21名		〃	天底小学校 44名	1	17	城西小学校3年 159名
	27	栗国小学校 21名	11		中川小学校6年 20名	18		城西小学校3年 39名
	29	若狭小学校 37名	12		上本部小学校6年 53名	30		高良小学校3年 260名
7	13	若狭小学校 76名	13		普天間小学校4年 146名	2	6	港川小学校5年 190名
	24	天妃小学校 205名		〃	北美小学校4年 97名	20		石嶺小学校3年 173名
	31	浦添小学校 40名		〃	室川小学校 157名	22		壺屋小学校3年 129名
10	4	登野城小学校 210名		〃	伊是名小学校 27名	25		城東小学校3年 176名
	15	兼城小学校 178名	14		有銘小学校5・6年 27名	3	1	松島小学校3年 152名
	16	安富祖小学校 37名		〃	牧港小学校3年 152名	5		久茂地小学校 113名
	16	座間小学校 30名		〃	古堅南小学校4年 70名	15		松川小学校 189名
	17	宇栄原小学校 259名		〃	三育小学校3・4年 41名			
	〃	志真志小学校 176名	15		佐敷小学校3年 104名			
	18	平敷屋小学校 80名	19		湧川小学校6年 16名			
	〃	金武小学校 124名		〃	伊豆味小学校6年 12名			

中学校

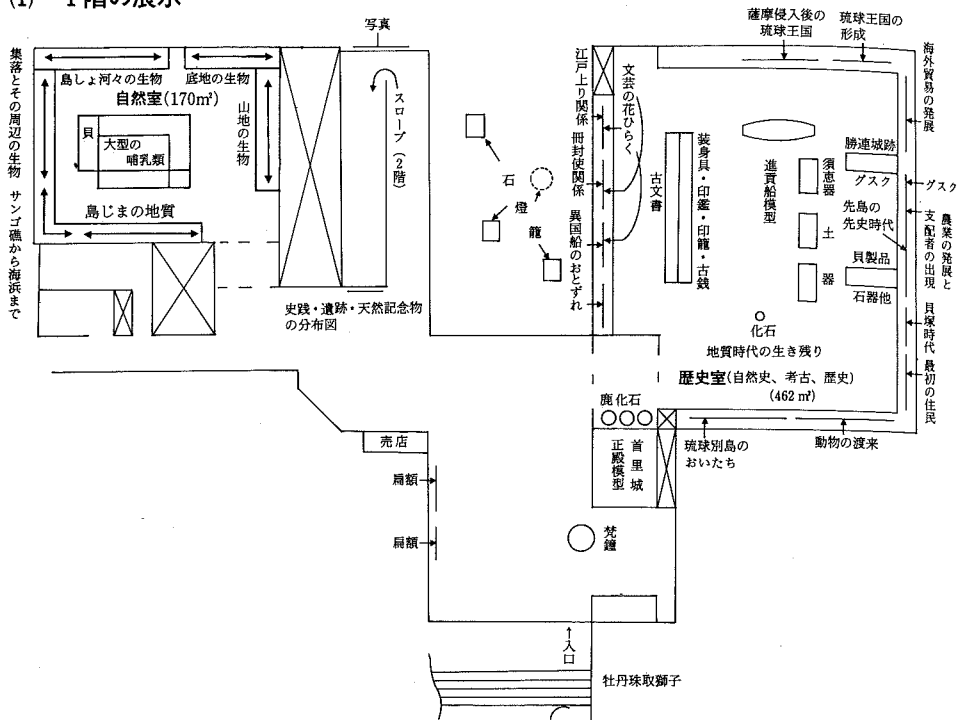
月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
6	13	真志喜中学校2年 350名	11	5	糸満中学校 425名	29		石川中学校2年 214名
9	26	長嶺中学校 191名		7	東風平中学校 224名			
11	1	嘉手納中学校1年 280名	19		北国中学校 13名			

高等学校

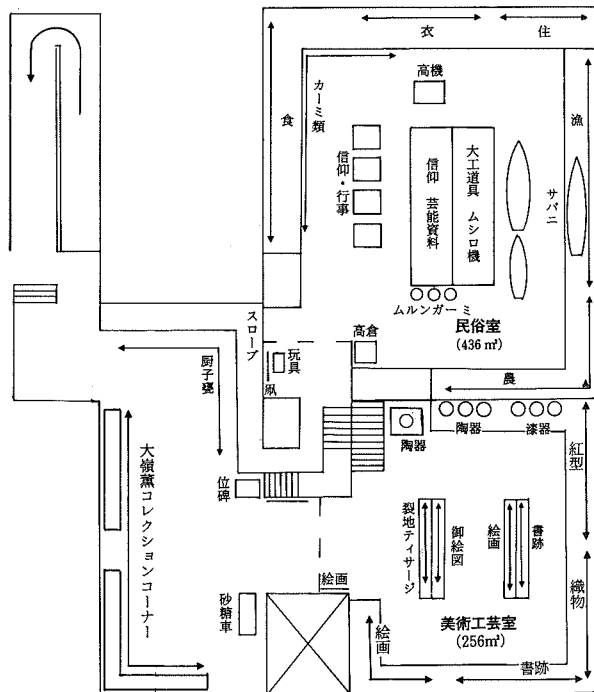
月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
6	29	北谷高等学校3年 39名	11	14	沖縄工業高等学校 41名	11	26	読谷高等学校 77名
11	5	小禄高等学校 6名	22		鏡が丘養護学校高等部20名			

展示活動 常設展

(1) 1階の展示

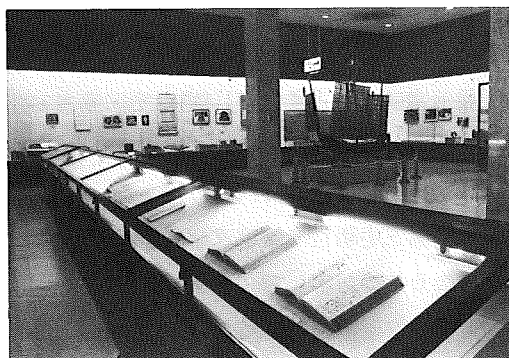


(2) 2階の展示





歴史展示室



歴史展示室



自然史展示室



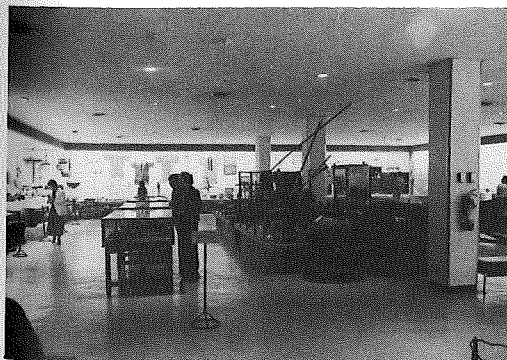
自然史展示室



美術工芸展示室



美術工芸展示室



民俗展示室



民俗展示室

展示室概観

展示室は1階「歴史室」（自然史・考古・歴史）「自然史室」（沖縄の自然）で2階は「美術工芸室」（美術工芸全般）「民俗室」の4室がある。

「歴史室」は地質時代から始まる。まず「琉球列島のおいたち」とし、中世代員亜紀・新世代第三中新世・新第三紀鮮新世・第四紀のはじめ頃、第四紀中頃の古地図をパネルで示し、それに対応して、イリオモテヤマネコの骨格標本、ハブ類、リュウキュウイノシシなどの生物標本を展示した。

それに続く、原始・古代は、山下町第一洞穴遺跡出土の骨製品と港川人に始まり、原始古代の編年表に合わせ、荻堂式・大山武士器等沖縄の代表的な土器と石器、骨器等を時代順に展し、それに続いて、宮古・八重山の原始・古代の土器・石器・陶磁器を展示、最後にグスク時代の出土遺物と写真パネルを展示した。

歴史時代は海外取引に関する首里那覇港図・八曲屏風・朝鮮鐘・陶磁器等を展示、続いて「琉球王国の形成」「薩摩入後の琉球王国」「江戸上りと冊封使」「文芸の花ひらく」「異国船のおとずれ」とノロ関係資料・おもろさうし・中山世鑑・奉使琉球図・江戸上り行列図・三味線を展示。

「自然室」は1、島じまの地質（岩石標本・鉱物標本・大型化石・港川人）、2、サンゴ礁から海浜まで（さんご礁の生物Ⅰ・Ⅱ、磯の生物・砂浜の生物・マングローブの生物）、3、集落とその周辺の生物（人家付近の生物・耕作の植物他）、4、島しょ河川の生物（自然度の高い河川の生物・汚染された河川と生物）、5、低地の生物（低地の植物、低地の動物、鍾乳洞と中の動物）、6、山地の生物（山地の植物、溪谷の生物、岩山の生物、山地の動物）、7、その他大型の貝・イモ貝・タカラ貝の仲間・ヘビ・トカゲの仲間・大型のkg乳類（ケラマジカ・リュウキュウイノシシ）・ヤンバルクイナ等を展示。

「美術工芸室」は、沖縄の陶器（古我地焼・湧田焼・喜名焼・壺屋焼）琉球漆器・織物・紅型・絵画・書跡を展示。

「民俗室」は、琉球列島の民具の農業・漁業・衣・食・住に分けて展示し、今年から芸能関係の資料を展示した。また2階ロビーには、砂糖車・位牌・厨子甕の資料も展示した。

特別展「グスク」

ーグスクが語る古代琉球の歴史とロマンー

会期：昭和60年11月1日（金）～12月1日（日） 会場：第一展示室

共催：沖縄タイムス社

1 趣 旨

近年、中世遺跡の発掘調査が、急増し著しい研究成果をあげている。このような研究の進展に伴って文献史学をはじめ、各分野で中世研究熱が高まり、一種の中世ブームの様相を呈している。このような状況のなかで、わが県においてもグスクの発掘調査や分布調査が活発で、多くの成果を上げつつある。とくに近年、首里城跡をはじめ今帰仁・南山・浦添・勝連城跡など沖縄を代表するグスクの調査がなされ、多くの成果を上げグスクへの関心が高まりつつある。

これまで県下のグスク全体を総括した展示は、まだなされたことがない。今回の「グスク展」は、奄美諸島から八重山諸島に到るいわゆるグスク文化圏のこれまでの研究成果を集成するかたちで展示し県民に公開した。

2 展示内容

〔人類の登場からグスクまで〕…沖縄に人類が登場した約3万2千年前から12世紀末のグスクの発生するまでを出土遺物をとおして概観した。

〔発生期のグスク〕…12～13世紀の初期グスク遺跡の様子を展示

〔発展期のグスク〕…屋良グスク・北谷グスクなどの出土遺物を展示

〔宮古・八重山のグスク〕…先島諸島のグスク時代の遺跡とその出土遺物を展示

〔奄美諸島のグスク〕…奄美諸島のグスクと各グスクの出土の遺物を展示。とくに徳之島カムイヤキ古窯跡出土の須恵器30点はこの特別展の目玉となった。

〔グスクとは〕…グスクについてのいろいろな考え方、いわゆるグスク論争について解説。

〔大交易時代のグスク〕…14～16世紀の交易品を各グスクの出土品をとおして表現した。

その他〔グスクのかたち〕・〔オモロとグスク〕・〔組踊りとグスク〕など考古学以外の分野からさまざまなグスクの在り方についてパネルなどによって表現した。

3 グスクシンポジウムと南部のグスクめぐり

この特別展に関連して、RBCホールで「グスクシンポジウム」が行われ定員200人をはるかに上回る参加者があり、超満員の盛況であった。また博物館文化講座で行った「南部のグスクめぐり」も応募者が定員の3倍にも達したため、友の会でも別に実施した。

4 展示品目録

●リュウキュウジカ●リュウキュウムカシキョン●トリロホドンゾウの化石●山下町第一洞穴遺跡出土の骨器3点●港川人（レプリカ）●野国貝塚群B地点遺跡出土の爪形文土器6点・条痕文土器3点●局部磨製野石斧4点●市来式土器片2点●松山式土器片2点●宇宿上層式土器片3点●須恵器2点（笠利町出土）●面縄東洞式土器1点●砲弾形土器●嘉徳式6点●アヤマル岬遺跡出土土器片4点●手広遺跡出土土器片10点・貝製品6点・腕輪

3点●サウチ遺跡出土貝札1点・玉3点・紡錘車2点●宇宿貝塚出土青磁片5点・石斧2点●グスク遺跡出土中国陶磁器10点・鉄製品他10点・須恵器（名護市出土）1点●朝仁貝塚出土中国陶磁器20点・貝製品3点・骨製品2点・鉄製品5点●面縄グスク出土青磁碗6点●カムィ焼き古窯群出土の須恵器30点●北谷グスク出土中国陶磁器25点・日本製陶磁器2点小銭5点・鉄製品10点・銅製品10点・その他15点●浦添グスク出土古瓦・中国製陶磁器30点武器、武具50点・鉄銅製品25点・土器片10点・須恵器片10点・石製品8点○南山グスク出土中国陶磁器片25点・鉄銅製品20点・小判1点・玉類10点・土器片10点・骨製品10点●今帰仁グスク中国陶磁器65点・高麗青磁6点・備前焼片2点・ベトナムの陶器2点・古銭20点・銅製品30点・武器、武具30点・黒釉陶5点・自然遺物（牛骨）20点●フェンサ城貝塚出土フェンサ下層式土器4点・フェンサ上層式土器3点・中国陶磁器片6点・須恵器片3点・座喜味グスク出土中国陶磁器片35点●山田グスク出土青磁13点●佐敷グスク出土中国陶磁器23点・雁首2点・古銭12点・滑石製品片1点・石器2点●伊波後原遺跡玉緑口縁白磁碗1点・土器2点●勝連グスク出土中国陶磁器20点・サイコロ2点・骨製品8点・鉄銅製品20点・古銭15点●熱田貝塚出土須恵器片10点（1点は復元）・白磁片5点・滑石製品片4点・土器3点●屋良グスク出土中国陶磁器片39点・玉3点・古銭2点・土器2点・銅製品2点●竹下遺跡出土中国陶磁器片13点・土器片5点●我謝遺跡出土中国陶磁器片7点・土器7点首里城跡出土中国陶磁器片30点・銅製品3点・石製品6点●稻福遺跡出土玉50点・中国陶磁器片15点・土器片3点●住屋遺跡出土骨製品5点・貝製品2点・古銭3点・中国陶磁器片10点●宮国元島遺跡出土土器片7点・中国陶磁器片7点・鉄製品10点●里遺跡出土土器2点・中国陶磁器3点●下地原洞穴遺跡出土2点●八重瀬グスク出土中国陶磁器片28点・古銭3点・土器片9点玉1点・フルスト原遺跡出土中国陶磁器片15点・土器片5点●久里原貝塚出土土器5点・土器片10点●仲泊遺跡出土土器5点・土器片1点（グスク）1点●宇堅貝塚出土土器片15点（弥生式土器）・貝製品5点・石器3点・玉6点・砥石1点・骨製品5点●北原貝塚出土土器1点・貝塚製品2点・貝札5点・古銭5点●具志原貝塚土器片8点●地荒原遺跡出土土器片3点●シメグ堂遺跡出土土器5点・骨製品20点●仲原遺跡出土土器5点●阿良貝塚出土土器片5点●大原貝塚出土貝製品5点・土器3点●ピロウスク遺跡出土中国陶磁器15点・土器片6点●野グスク出土中国陶磁器片10点・土器片6点



テープカット



展示見学風景



「美術工芸の美を求めて—大嶺薫コレクション—」

会期：昭和61年2月18日（火）～3月16日（月） 会場：二階ロビーと第三展示室

1 趣 旨

昭和59年、財団法人・大嶺薫美術館が解散するにあたり、約3,000点余りの資料が当館に寄贈された。大嶺薫コレクションは美術工芸、歴史、民俗、考古などの各分野にまたがっており、収集範囲も沖縄をはじめとして中国、日本そして東南アジア諸国のものまで広がっている。これらの資料をできるだけ多く展示し、広く県民に紹介するために特別展を開催した。なお、同展終了後、大嶺薫コレクションコーナーを設け、陶器を常設展示している。

2 展示内容

大嶺薫コレクションの約3,000点余りの資料の中から、各分野ごとに代表的なものを選び450点余りを展示した。二階ロビーには歴史、考古、民俗、そして美術工芸の陶器と書跡の扁額（林鴻年書）を配置し、第三展示室には絵画、書跡、漆器を展示した。

3 展示品目録

陶器～抱瓶、嘉瓶、渡名喜瓶、その他南蛮壺など

漆器～黒漆山水楼閣人物螺鈿文机、その他中国・日本の漆器など

絵画 手籠盛花図・その他中国・日本の絵画など

書跡 県指定・「程順則の書」、鄭嘉訓・宜湾朝保などの書

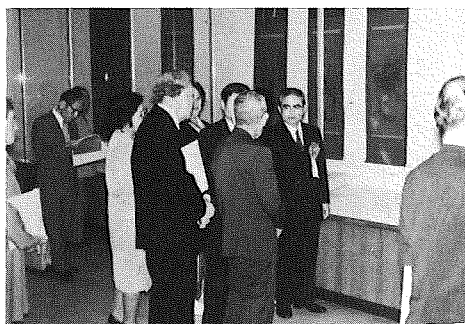
歴史 古鏡、勾玉、貨幣、簪、櫛など

考古 石棒、石斧、類など

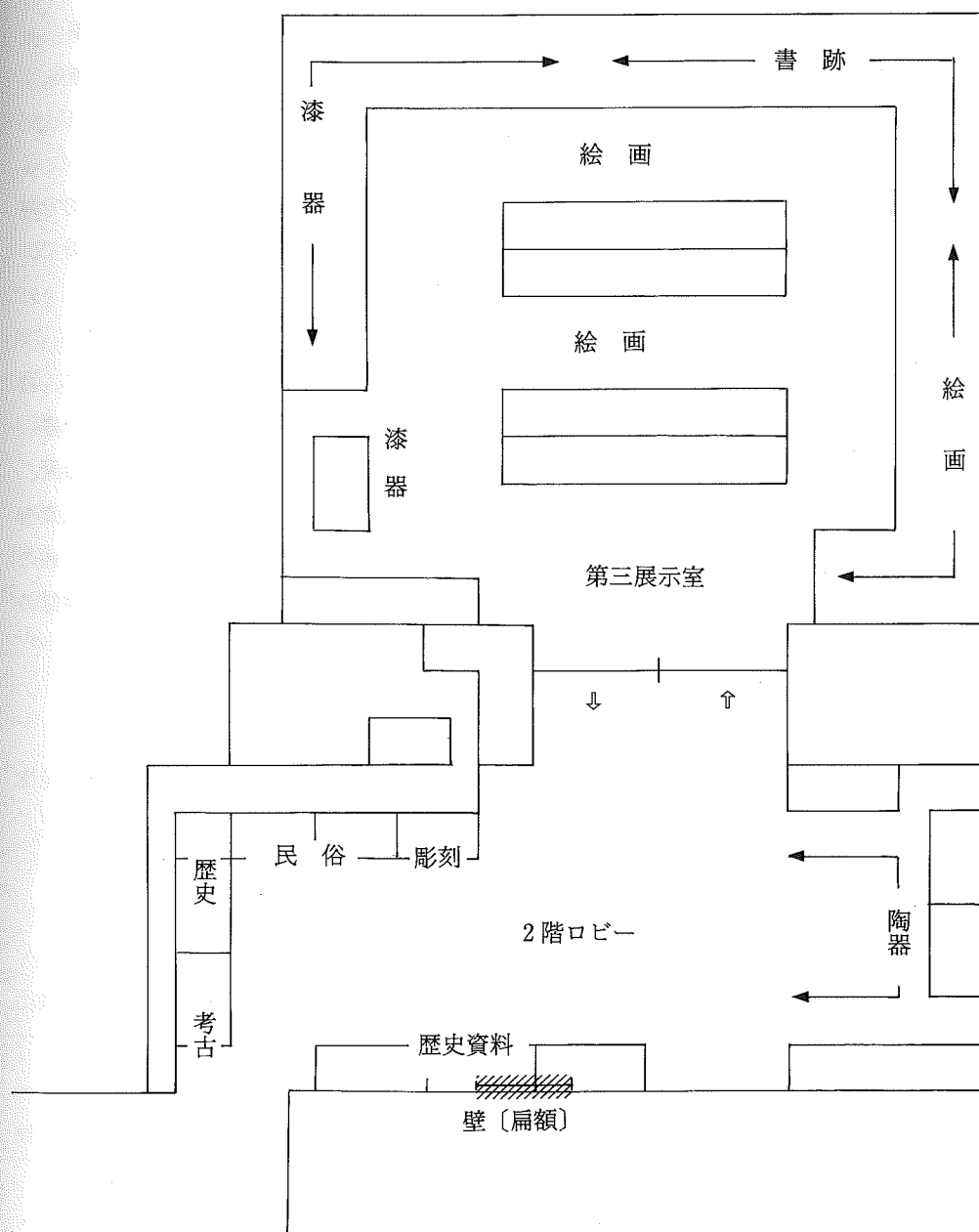
民俗 煙草入れ、仮面、台湾高砂族関係資料など



感謝状贈呈式



展示見学風景



大嶺薫コレクション展「美術工芸の美を求めて」展示略図

企画展

新収蔵品展

会期：昭和60年5月1日（水）～5月19日（日） 会場：二階ロビー

1 趣 旨

前年度に寄贈・購入・収集あるいは移管・返還などで得た資料を一般公開する目的で毎年開催している企画展である。新資料を紹介し、広く役立てることを目的とすると同時に、資料を提供していただいた方々への感謝の意を込めて開催するものである。

2 展示内容

展示スペースに限界があり、収蔵品の約3分の1程度を展示。おもな展示品として、自然ではニホンムカシジカのレプリカ、美術工芸では冊封使の趙文楷・林麟□・齊鯤の書、殷元良筆「枯柳水禽之図」、孫億筆「牡丹水禽之図」、査丕烈の「牡丹の図」などの絵画、歴史では『孫氏家譜』『施姓家譜』、軽便鉄道レール、拓本類、民俗では厨子甕、中国楽器や工工四、考古では尚家上御殿跡採集の古瓦や末吉宮採集の古瓦のほか、稲垣国三郎翁の遺品として、沖縄に赴任したときの辞令、尚育王の書などを展示。なお、大嶺薫美術館の資料が当館に寄贈されたが、別途特別展を開催したのでここでは割愛した。

3 展示品目録

(1)購入の部

自然：沖縄島産及び久米島産カニ類標本(15)、美術工芸：林麟□書・齊鯤の書・鄭元偉書（聯）・殷元良筆「枯柳水禽之図」・孫億筆「牡丹水禽之図」

(2)寄贈の部

自然：ニホンムカシジカのレプリカ・ヒメヘビ・カニ化石・材化石（2点）

美術工芸：趙文楷書・謝花雲石書「歌大陸」・尚育王書「四時」・査丕烈筆「牡丹の図」・焼締小壺・象乗り観音座象・竜巻花瓶・南支壺・朱漆海老海藻堆綿菓子入れ・朱漆山水樓閣人物箔絵丸櫃

歴史：『孫氏家譜』・「施姓家譜」・「小細工奉行発給の辞令書」、稲垣国三郎辞令(4)・「土地売渡証文」・軽便鉄道レール(2)・拓本〔梵字碑・育徳泉・善淵堂・甘醴延齡・勸耕台〕

民俗：石厨子・マンガン掛厨子甕・重箱入れ・ウッチャキーと帯・翁面・中国楽器・工工四

(3)収集の部

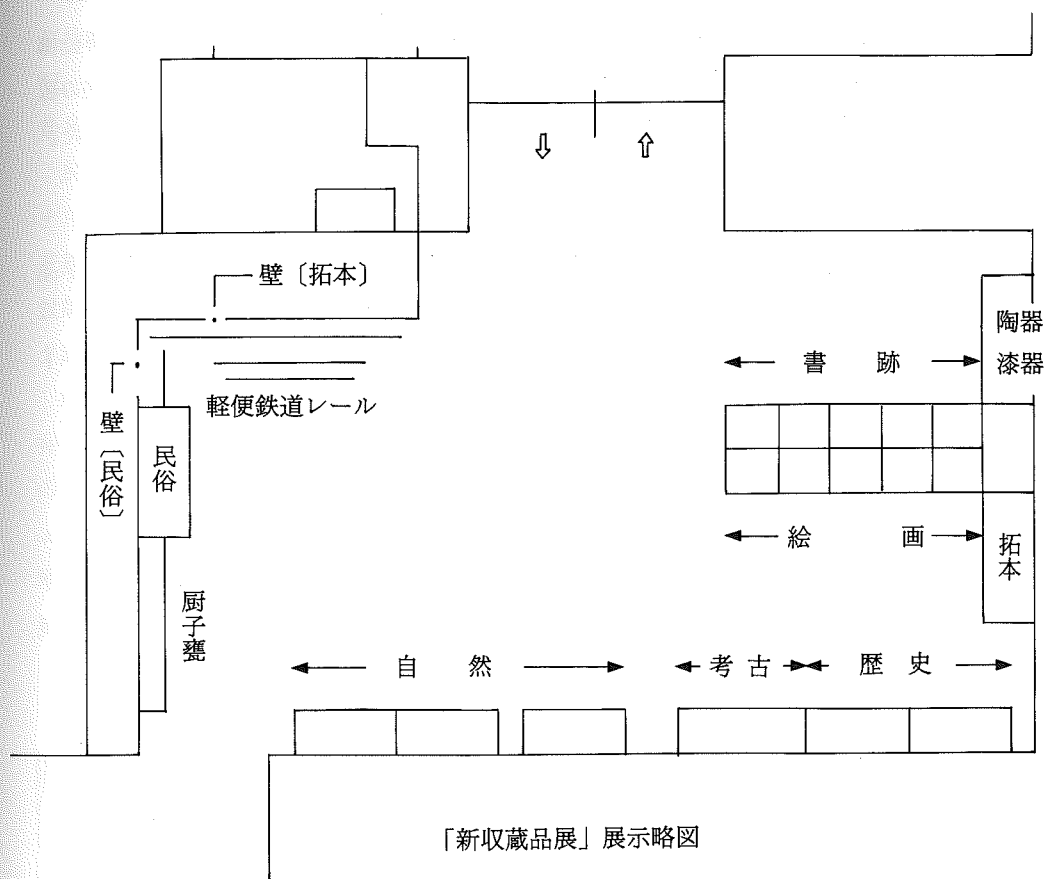
歴史：拓本〔比謝橋碑文・当蔵村阿丹祢川獄碑文・新修美栄橋碑記・北山今帰仁城監守来歴碑記・たまおとんのひもん・唐人墓碑・飯森墓碑・琉球国新建姑米山天后宮碑記・泰山石敢當〕

考古：尚家上御殿跡採集の古瓦・末吉宮採集の古瓦

民俗：ホラ貝・やかん

4 感謝状の贈呈

多額または価値の高い資料を提供した寄贈者に対し、5月1日午前10時、感謝状の贈呈式が行われた。稲垣国三郎関係の遺品を一括寄贈した稲垣千世野氏、ニホンムカシジカのレプリカを寄贈した長谷川善和・小村悦夫氏、歴史・美術工芸を寄贈した吉戸直氏の各氏。



移動博物館

第9回移動博物館

会 期：昭和60年6月8日（土）～9日（日）

会 場：伊是名村離島振興総合センター

観覧料：無料

主 催：沖縄県立博物館・伊是名村・伊是名村教育委員会

1 趣 旨

離島や遠隔地の県民の要望に応える形で、昭和54年度から各地で開催してきた「移動博物館」も今回で9回を数える。これは、博物館の通常の活動を公開することで、文化の広域的普及を目的としている。今回は、離島でしかも遠隔地にある伊是名島にて実施した。

2 内 容

展示会、文化講座、ビデオの三本柱で構成。

①展示会：古生物のレプリカ、生物写真パネルから、歴史、民俗、美術にいたる展示品をもうらした。戦前の沖縄の写真パネル60点も展示。

②ビデオ放映：「琉球の風物」「琉球の民芸」「東洋のガラパゴス」「トンボの恋はハート型」

③講演会

日 時：昭和60年6月8日（土） 午後4時～6時

場 所：伊是名中学校体育館

講 師：高良倉吉（沖縄史料編集所専門員）『伊是名島からみた沖縄の歴史』

大城立裕（県立博物館館長） 『沖縄人の生きかた』

4 入場者

	小 人	大 人	団 体	合 計
6月8日（土）	20	70	280	370
9日（日）	44	81		125
合 計	64	151	280	495

5 展示資料目録

古生物：プロトケラトプス、プロバクトロサウルス、タルボサウルスの頭骨、タルボサウルスの指趾骨、恐龍の卵の化石、マンモスの大白歯、世界最大の化石“コレニア”

沖縄の生物：写真パネル（沖縄の天然記念物）25点、沖縄のトンボ類61種、沖縄の蝶類70種、リュウキュウイノシシ、サシバ、カルガモ、ホウクロシギ、ヤマシギ、ヒヨドリ、ツルクイナ

美術工芸：毛長禧筆「花鳥図」、「樹下織婦図」、「江戸上り行列図」（版画）、尚慎書「五

言絶句」、毛織藩書「対句」、木綿白地霞に松竹梅文様衣裳、紅型型紙、紅型裂地、芭蕉浅地格子に緋上衣、御絵図、読谷山花織ティーサージ、グーシバナミンサー帯、朱漆巴紋牡丹七宝繫沈金食籠台、畔漆山水螺鈿六角食籠、朱漆山水人物箔絵湯庫、朱漆山水楼閣堆錦重箱、赤絵花鳥文抱瓶、家紋入り嘉瓶、二彩流筒花生、アンダ・ガーミ、赤絵鶴松竹文鶴首、なまこ釉カラカラ、飴釉流なまこ釉香炉、赤絵撫子文碗、赤絵葡萄蔓文急須、玉陵石獅子（レプリカ）1対

歴史：〔拓本；万歳嶺記、円覚禅寺記、国王頌徳碑、崇元寺之前之碑文（下馬碑）、今帰仁池城墓碑文、比謝橋碑文、北山今帰仁城監守来歴碑記、総官野国由来記、新修美栄橋碑記、迎恩（扁額）、善行家風（掛床）、津嘉山森墓碑、ようとのひもん、本覚山碑記、伊是名玉御殿内石厨子〕、琉球通宝等小銭類、勾玉

民俗：かめ型花籠、縄耳付花籠、山形立差花籠、立差花籠、窓の月花籠、蘇鉄差花籠、ナス型花籠、乱れ差花籠、丸竹満月花生、丸竹花台、紙屑入籠、茶碗入籠、盛籠、麻瓜型花籠、南瓜型花籠、ウーパーラ、二つ籠、蘇鉄差一輪生、流差一輪生、アラバーキ、壁掛盆飯籠、竹行李、桜井天神風、相良風、蟬風、三条の六角風(3)、白杆の表奴風、長崎のハタ風、沖縄の風(4)

戦前の沖縄（写真パネル）：首里城守門、首里城歓会門、園比屋武御嶽石門、円覚寺仏殿、弁ヶ嶽大嶽石造拝殿、首里城正殿、首里城白銀門、首里那覇全図、玉陵、識名園、那覇市の一部、名護湾、名護、運天港、源河山の深谷、名護の墓、大井川の峽江、名護の大ガジュワル、砂糖の製造、与那原全景、屋部川とサキシマハマボウ、崇元寺、山原の田家渡久地港、中城城跡、本部渡久地、渡久地晩景、競馬、闘牛、首里風景、市場、辻原の亀甲墓、農家、サーターヤー、葬列、カーミ市、今帰仁小学校の生徒たち、伊江島のウマ



開館式



展示見学風景

教育普及活動

博物館文化講座

講演会形式だけでなく、収蔵品の解説や体験学習形式も取り入れたものとなっている。

場所：博物館講堂

第131回 「三味線解説会」 4月20日（土）

講師：又吉真三（県文化財保護審議会委員）・黒島 惇（県教育庁）

参加者：26名

第132回 「昆虫標本解説会」 7月27日（土）

講師：東 清二（琉球大学教授） 参加者：18名

第133回 「民具教室」 8月11日（日）

講師：上江洲均（県立博物館学芸係長） 参加者：70名

第134回 「拓本教室」 8月17日（土）

講師：崎間麗進（県立文化財保護審議会専門委員）・又吉真三（県文化財保護審議会委員）・上江洲敏夫（県立博物館学芸員） 参加者：20名

第135回 「紅型教室」 8月23日（金）～25日（日）

講師：藤村玲子（紅型研究家） 参加者：20名

第136回 「南部のグスクめぐり」 9月8日（日）

講師：知念 勇（県立博物館教育普及係長） 参加者：45名

第137回 「陶器解説会」 9月28日（土）

講師：宮城篤正（浦添市立図書館 館長） 参加者：29名

第138回 「グスク展展示資料解説会」 11月16日（土）

講師：知念 勇（県立博物館教育普及係長） 参加者：25名

刊行物

刊 行 物 名	種 類	部 数	規格：頁数	内 容
「新収蔵品展」図録	不定期	1,000	B 5：12	新収蔵品を紹介する図録
第9回移動博物館	不定期	1,000	B 5：4	展示を紹介したリーフレット
沖縄県立博物館年報No.18	定 期	500	B 5：47	前年度の当館の活動状況報告
「グスク展」ポスター	不定期	3,000	半 切	特別展の広報ポスター
「グスク展」リーフレット	不定期	10,000	B 5：4	展示を紹介したリーフレット
「グスク展」図録	不定期	1,000	B 5：144	展示を紹介する図録
博物館だよりNo.25	定 期	1,000	B 5：6	当館活動の近況報告
沖縄のトンボ	不定期	1,000	B 5：70	沖縄のトンボの種類の紹介
「大嶺薫コレクション展」図録	不定期	1,000	B 5：126	展示資料を紹介した図録
沖縄県立博物館紀要No.12	定 期	1,000	B 5：68	当館学芸員の研究調査報告
ポスター	定 期	1,000	半 切	次年度の当館行事案内
博物館利用の手引	不定期	3,000	B 5：24	見学者のための手引
博物館だよりNo.25	定 期	1,000	B 5：4	当館活動の近況報告

調査・研究活動

本年度（昭和60年4月～昭和61年3月）の各担当職員の調査研究等の活動状況は以下の通りである。

調査研究

宜保榮治郎（副館長）

苗族の芸能調査

期 間：昭和60年3月～4月

目 的：服装習俗が沖縄と同じ苗族（中国奥地に住む）の芸能文化の調査。

上江洲均（学芸係長）

徳之島の民俗調査

期 間：昭和60年7月21日～7月28日・9月27日～10月2日

依頼機関：沖縄国際大学南島文化研究所

伊平屋のウンジャミ調査

期 間：昭和60年8月31日～9月4日

依頼機関：伊平屋教育委員会

伊平屋の8月行事調査

期 間：昭和60年9月24～26日

依頼機関：伊平屋村教育委員会

伊是名の民俗調査

期 間：昭和60年10月27日～28日・11月17日～18日

依頼機関：伊是名村史編集委員会

宜野座村の民俗調査

期 間：昭和60年4月～

依頼機関：宜野座村史編集委員会

知念 勇（教育普及係長）

特別展「グスク展」に伴う資料収集調査

期 間：昭和60年7月26日～28日、9月11日～13日

調 査 地：徳之島（面縄グスク・玉城グスク・大城グスク・カムイ焼古窯跡）

久米島（具志川グスク・伊敷那覇グスク他）

石垣島シタグル遺跡調査

期 間：昭和61年7月11日～13日

依頼機関：日本水中考古学会

那覇市歴史の道調査

期 間：昭和61年8月～10月

依頼機関：那覇市教育委員会

調 査 地：那覇市（御物グスク・グスク岳貝塚・山下町第一洞窟遺跡跡地）

日越国昭（主任学芸員）

国頭郡天然記念物緊急調査

期 間：昭和60年4月～昭和61年3月

依頼機関：沖縄県教育委員会

目 的：国頭郡の天然記念物の現状とその保護のための基礎調査

結 果：昭和61年度及び昭和62年度に報告する予定。

浦添市植生調査

期 間：昭和60年4月～10月

依頼機関：浦添市教育委員会

目 的：浦添市史の自然編に関わる土壌と植生の関係を調査

硫黄島植生調査

期 間：昭和60年8月

目 的：硫黄島の植生調査と植物資料の収集

伊計島総合調査

期 間：昭和61年3月

目 的：博物館総合調査の一環として、伊計島の植物群落と環境との関係の調査

那覇市金城俗称「上の毛」の植物調査

期 間：昭和61年3月

依頼機関：那覇市教育委員会

目 的：開発予定の「上の毛」の植物調査

上江洲敏夫（学芸員）

諸職関係民俗文化財調査

期 間：昭和60年9月～11月

依頼機関：県教育庁文化課

目 的：昭和60・61年の両年継続の国庫補助事業の一貫としてなされる民俗文化財の調査で、県下の諸職関係の技術伝承を記録する。

結 果：昭和61年度に調査報告書が刊行される予定。

大門森の古墓調査

期 間：昭和60年7月13・14日～11月13日

依頼機関：具志川市教育委員会

目 的：具志川市内でも墓の築造年がはっきりしている大門森の古墓調査。同墓を管理する池保門中の要請による調査。

著作・論文

宜保榮治郎

○「沖縄の古典芸能」『月刊文化財』（昭和61年2月）

○「韓国の綱引き—全羅北道扶安邑内蔘里の場合」『沖縄民俗研究6号』沖縄民俗研究会

(昭和61年3月)

- 「沖縄県立博物館所蔵の工工四について (三)」『沖縄県立博物館紀要12号』沖縄県立博物館 (昭和61年3月)

上江洲均

- 「沖縄の風土と工芸」「沖縄民具の一特性」『日本の伝統工芸』ぎょうせい (昭和60年6月)
- 「南島の民具」『民具調査ハンドブック』雄山閣 (昭和60年6月)
- 「サバニ」「沖縄の仮面」『民俗文化体系』小学館 (昭和60年6月)
- 「徳之島におけるソテツ利用について」『徳之島調査報告書』沖縄国際大学南島文化研究所 (昭和60年11月)
- 『伊平屋の民俗散歩』ひるぎ社 (昭和61年1月)
- 「済州島の民具」『沖縄民俗研究』沖縄民俗研究会 (昭和61年3月)
- 「久米島関係資料」『沖縄県立博物館紀要12号』沖縄県立博物館 (昭和61年3月)

知念 勇

- 「人類の登場からグスクまで」『グスクグスクが語る古代琉球の歴史とロマン』沖縄県立博物館 (昭和60年11月)
- 「グスク」『日本古代歴史考古学を学ぶ (下)』有斐閣 (昭和60年2月)
- 「多和田真淳調査収集の考古資料 (V)」『沖縄県立博物館紀要12号』沖縄県立博物館 (昭和61年3月)
- 「座喜味城跡遺構調査の概要」『座喜味城跡環境整備事業報告書』読谷村教育委員会 1986年3月

日越国昭

- 「南西諸島の天然記念物の保護～とくに沖縄県の植物について～」『植物と自然5』ニューサイエンス社 (昭和60年5月)
- 「万座毛石灰岩植物群落調査報告」『恩納村文化財調査報告書第6集』恩納村教育委員会 (昭和60年10月)
- 「山原の自然とその保護」『地域と文化 第35・36合併号』 (昭和61年2月15日)

上江洲敏夫

- 「紅型の沿革と技法」『琉球紅型と琉球ガラスに関する調査報告書』沖縄協会 (昭和61年2月)
- 「首里織物の歴史」『首里織の歴史と技法』那覇伝統織物物産事業共同組合 (昭和61年3月)
- 「堂号について」『沖縄県立博物館紀要12号』沖縄県立博物館 (昭和61年3月)

津波古聡

- 「灰釉碗と釉薬の流れ」『沖縄県立博物館紀要12号』沖縄県立博物館 (昭和61年3月)

與那嶺一子

- 「県立博物館の織物 I」『沖縄県立博物館紀要12号』沖縄県立博物館 (昭和61年3月)

収蔵資料

収蔵資料現在高

昭和61年 3 月31日現在

分類		受理次第	購 入	寄 贈	収 集	移 その 管 他	小 計	総 計
自 然 資 料	地 質		629	414	7	17	1,067	7,668
	動 物		901	4,371	467	12	5,751	
	植 物		0	850	0	0	850	
美 術 工 芸	絵 画		61	289	1	0	351	5,605
	書 跡		137	242	40	3	422	
	彫 刻		4	100	138	0	242	
	陶 磁 器		415	1,614	251	490	2,770	
	漆 器		219	203	156	0	578	
	染 織		1,039	194	9	0	1,242	
歴 史 資 料			406	3,108	334	84	3,932	3,932
考 古 資 料			9	935	755	0	1,699	1,699
民 俗 資 料			522	2,077	505	73	3,177	3,177
総 計			4,342	14,397	2,663	679	22,081	22,081

昭和60年度収蔵資料

昭和61年 3 月31日現在

分類		受理次第	購 入	寄 贈	収 集	移 その 管 他	小 計	総 計
自 然 資 料	地 質							0
	動 物							
	植 物							
美 術 工 芸	絵 画			28			28	49
	書 跡		9	4			13	
	彫 刻			1			1	
	陶 磁 器							
	漆 器			2			2	
	染 織		3	2			5	
歴 史 資 料			7	9		11	27	27
考 古 資 料			4	28	208		240	240
民 俗 資 料			11	40	351		402	402
総 計			34	114	559	11	718	718

昭和60年度新収蔵資料目録

寄贈の部

* (学) は学芸資料を示す

分 類	品 名	数量	寄 贈 者 名	住 所
美術工芸	絵 画 日本画	20	具志堅聖児	東 京 都
	〃 二十四孝図	3	与那嶺 清	座間味村
	〃 紙本漆彩 沖縄風景絵図 (卷子装)	2	山崎 正忠	熊 本 県
	書 跡 趙文楷の書 (黒紙金泥箋)	1	新崎 盛敏	東 京 都
	〃 蕃堂氏奉加 鎮西八郎歌 (学)	1	〃	東 京 都
	〃 王文燁の書 (卷子装)	1	池永 倫明	西 原 町
	彫 刻 眠り籠	1	長嶺 憲一	豊見城村
	染 織 絹紺地格子着物	1	屋富祖スエ	那 覇 市
	〃 麻コージャー地総絳着物	1	〃	〃
	漆 器 朱漆双龍彫吉祥文螺鈿小卓	1	吉戸 直	那 覇 市
歴史資料	〃 黒漆玉取獅子吉祥文螺鈿八角鉢	1	〃	〃
	〃 朱漆花唐草文堆錦鞍 (学)	1	〃	〃
	古文書 豊見城按司より福昌寺宛書状	1	吉戸 直	那 覇 市
	〃 高明山社併神徳寺 (在真志郡安里邑東)	1	新崎 盛敏	東 京 都
	典 籍 訓蒙 日本外史 全7冊	1	奥浜 真昌	那 覇 市
	現 代 琉球警察本部発行資料他2冊 (学)	10	吉戸 直	〃
	〃 沖縄郷土史年表	1	津波古憲和	〃
	〃 パスポート	2	大城 立裕	〃
	建 築 安里橋 (崇元寺橋) 支柱 (学)	1	大城 陽三	〃
	地 図 沖縄県管内地図	1	Tom Oshiro	米 国
考古資料	大里村大城グスク採集白磁片	2	翁長 良明	那 覇 市
	〃 青磁酒会壺片	5	〃	〃
	〃 青磁皿及盤片	3	〃	〃
	〃 青磁碗片	6	〃	〃
	〃 青磁鉢片	1	〃	〃
	〃 黒釉陶器片	9	〃	〃
	〃 球状土製品	2	〃	〃
民俗資料	菓子型	1	高 光 敏	韓 国
	韓国民具	4	某 氏	那 覇 市
	壺型厨子甕 他	2	金城 秀守	〃
	わきのこ 他	2	高良 繁	浦 添 市
	シマイザイ 他	3	伊礼 孝進	伊平屋村
	玩具「ハブワー」他	14	与那覇幸子	石 川 市
	一斗壺・石臼 他	4	嘉手納 勉	那 覇 市
	上焼本御殿型厨子甕	1	国吉 軍次	埼 玉 県
	中国琴楽譜 (木版)	8	棚原 靖子	那 覇 市
	アダン葉草履	1	石塚 康夫	東 京 都

返還の部

分 類		品 名	数量	移 管 機 関
歴 史	建 築	安里橋（崇元寺橋）支柱	4	米 国
	〃	礎盤	7	〃

購入の部

分 類		品 名	数量
美 術	書 跡	徐葆光書「七言律詩」	1
	〃	鄭元偉書「近江八景」	8
	染 織	芭蕉・紺地総絣着物	1
	〃	芭蕉・白地総絣着物	1
	〃	絹・稻妻に花の丸文様衣裳	1
歴 史 資 料		質問本草 全5冊	5
		B型軍票（千円・百円）	2
民 俗 資 料		玩具「凧」	8
		玩具「胡蝶凧」	2
		玩具「ヤカジ」	1
考 古 資 料			4

収集部

分 類	品 名	数量
考 古 資 料	多良間村高田海岸採集の染付片	132
	〃 青磁片	8
	竹富町黒島フズマク遺跡採集貝錘	2
	〃 陶器片	26
	〃 染付片	12
	〃 土器	28
民 俗 資 料	石厨子	3
	御殿型厨子甕	13
	壺型厨子甕	241
	水がめ	5
	塩 壺	17
	火取り 他	6
	小德利 他	8
	古 銭	37
	指 輪	6
	かんざし 他	8
	湯のみ	2
	ミーゾーキ 他	5

博物館所蔵国・県指定文化財一覧表

(1) 国指定文化財 重要文化財

昭和60年3月31日現在

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	お も ろ さ う し	22冊	昭48. 6. 6	県立博物館	沖縄県
〃	昆 効 験 集	2冊		〃	〃
工 芸	銅 鐘 (旧首里城正殿鐘)	1口	昭53. 6.15	県立博物館	沖縄県
	梵 鐘 (旧円覚寺殿前鐘)	3口	〃	〃	〃
	梵 鐘 (旧円覚寺殿中鐘)				
	梵 鐘 (旧円覚寺楼鐘)				

(2) 県指定文化財 有形文化財

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書	1軀1枚	昭33. 3.14	県立博物館	沖縄県
〃	世 持 橋 勾 欄 羽 目	1括	〃	〃	〃
絵 画	絹本着色花鳥図 (殷元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
	紙本着色雪中雉子の図 (殷元良筆)	〃	〃	〃	〃
	紙本墨画竹の図 (殷元良筆)	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
	紙本着色奉使琉球図 (朱宦年筆)	1巻	〃	〃	〃
工 芸	三 味 線 江 戸 与 那	1挺	昭33. 8.15	県立博物館	沖縄県
	聞 得 大 君 御 殿 雲 龍 黄 金 簪	1本	昭33. 3.14	〃	〃
	黒 塗 螺 鈿 遊 雁 絵 大 文 庫	1合	昭31.12.14	〃	〃
	黒 塗 堆 錦 山 水 絵 大 文 庫	〃	〃	〃	〃
	黒 塗 螺 鈿 雲 龍 文 内 金 箔 蓋 付 椀	3口	〃	〃	〃
	枝 梅 竹 文 赤 絵 椀	1口	昭54. 9. 3	〃	〃
	線 彫 染 付 魚 文 皿	〃	〃	〃	〃
	色 象 嵌 栗 絵 菊 花 皿	〃	〃	〃	〃
	象 嵌 色 差 面 取 抱 瓶	〃	〃	〃	〃
	梵 鐘 (旧 霊 応 寺 鐘)	1口	昭60. 6. 1	〃	〃
	梵 鐘 (旧 普 門 禅 寺 鐘)	〃	〃	〃	〃
	梵 鐘 (旧 天 竜 精 舎 鐘)	〃	〃	〃	〃
	梵 鐘 (旧 天 尊 殿 鐘)	〃	〃	〃	〃
	梵 鐘 (旧 天 妃 宮 鐘)	〃	〃	〃	〃
	梵 鐘 (旧 一 品 種 権 現 鐘)	〃	〃	〃	〃
	銅 鐘 残 欠 (旧波上宮鮮鮮鐘)	〃	〃	〃	〃
典 籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
	〃 中山世譜	19冊	〃	〃	〃
書 跡	程 順 則 の 書	1巻	昭42. 4.11	県立博物館	沖縄県
古 文 書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1巻	昭49.11.11	〃	〃
	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1幅	昭53. 4. 1	〃	〃
	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3.20	〃	〃

その他の活動

資料貸出

① 考古資料：「萩堂式土器」 2点

期間：昭和60年3月31日～昭和61年3月31日 名称：日本文化のあけぼの

主催：国立歴史民俗博物館

② 美術工芸：「陶器黒釉獅」ほか11点

期間：昭和60年8月19日～9月2日

名称：世界のシーサー展

主催：琉球新報社

会場：沖縄物産センター

③ 歴史資料・民俗資料：辞令書・厨子甕 2点

期間：昭和60年10月29日～昭和60年11月20日 名称：読谷山間切古文書拓本展

主催：読谷村立歴史民俗資料館

会場：同 館

④ 美術工芸：琉球切手原画「チナヒチ」ほか9点

期間：昭和60年11月23・24日

名称：1985年全琉切手展

主催：沖縄郵趣連盟

会場：那覇郵便局

⑤ 美術工芸：「琉球泡盛のポスター」 1点

期間：昭和60年11月29日～昭和61年1月31日 名称：沖縄の泡盛展

主催：沖縄市立郷土博物館

会場：同 館

燻 蒸

当博物館では資料の保存をはかる上で、例年定期的に年2回の燻蒸を行なっている。60年度の第1回目は6月17日～24日、第2回目は12月2日～11日に実施した。1階収蔵庫・地下収蔵庫および首里城模型や扁額をメチルブロマイドによって燻蒸し、その他展示室、事務室、講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行なった。また、燻蒸終了後、第1室と第3室の展示替えを行なった。

日誌（抄）（昭和60年4月1日～昭和61年3月31日まで）

- 4月1日 人事異動、係長村山勝信は奥武山総合運動場から、主任学芸員日越国昭は文化課から、技師平田典夫は那覇下水道処理場から、係長幸地右雅は奥武山総合運動場へ、学芸員当山昌直は文化課へ、技師下地栄は那覇下水道処理場へ。
- 6日 九州大学教授中村質氏、尚真王関係資料調査のため来館。高田女子短期大学保育科一行来館。
- 7日 福井県立博物館副館長、運営調査のため来館。
- 10日 田岡女子短期大学一行180名来館。
- 14日 松川団地自治会一行25名来館。
- 16日 沖縄県警視長来館。沖縄電力研修一行18名来館。李裕民中国銀行副頭取外4名来館。
- 17日 インドネシア大使夫妻来館。
- 19日 シンガポール大使夫妻来館。
- 20日 第131回文化講座「三味線解説会」講師：又吉真三氏。
- 26日 国際協力事業団総合研修所長長谷川正男氏外25名来館。
- 28日 与那原さとうきび奨励会一行25名来館。
- 5月1日 昭和59年度新収蔵品展開催。（19日まで）感謝状贈呈式、観宝堂主 吉戸直氏へ。
- 2日 中国科学院成都生物研究所副所長趙爾密氏が公害衛生研究所長吉田朝啓氏の案内で来館。
- 7日 琉球大学助教授木村政昭氏が刻画石の調査で来館。
- 10日 塩野宜慶最高裁判所判事外7名来館。博物館友の会役員会。
- 12日 与那原町婦人会一行19名来館。沖縄博物館協会理事会。
- 14日 米村教育長、大城社会教育課長が当館の敷地視察。中国新華社駐日記者梁氏来館。
- 16日 国際婦人協会会長愛知富氏外50名来館。空調運転開始。
- 17日 うららの会後藤常子氏外8名来館。
- 18日 文化課渡名喜明主任専門員、朝鮮瓦調査のため来館。
- 21日 名護市宇茂佐老人会一行45名来館。埼玉県議一行来館。
- 23日 八重山博物館館長玻名城泰雄氏来館。
- 24日 第25回九州博物館協議会総会を郵便貯金会館にて開催。
- 25日 九州博物館協議会研修会。
- 26日 北谷町婦人会一行38名来館。
- 27日 定期消防設備・電力設備点検を行う。
- 28日 当館所蔵の「朝鮮鐘」が県の文化財に指定される。
- 29日 沖縄県警宮崎氏来館。博物館友の会総会開催。

- 6月3日 移動博物館のため展示品の梱包作業開始。
- 6日 千葉県教育委員長一行来館。
- 8日 第9回移動博物館、伊是名村で開催。(9日まで)
- 14日 中流文化交流「故宫博物院展」の打ち合わせ。
- 15日 朝日新聞西部本社、平井・中馬両記者、水中考古学調査協力要請のため来館。
- 18日 燻蒸のため休館。(24日まで)
- 25日 福岡県工業試験場デザイン研究員の5名一行が紅型調査のため来館。
- 27日 石川市教育長宮城邦男氏外12名、文化施設視察のため来館。
- 28日 考古学者三島格氏来館。
- 29日 博物館友の会主催、自然史展示室解説会。
- 7月2日 カナダ・アセアン教員研修生23名来館。会計監査(3日まで)。
- 3日 島尻勝太郎氏尚家文書の件で来館。琉球教授大城志津子氏織物調査で来館。
- 4日 沖縄県社会教育主事一行70名来館。
- 8日 琉球教授大城志津子氏織物調査で来館。
- 10日 参議院沖縄北方問題特別委員会桑名議員外4名来館。
- 11日 アセアン記者団一行19名来館。
- 12日 那覇職労我謝氏外20名来館。
- 15日 瀬底島小中学校が教材作りのためビデオ撮影。
- 16日 日本民芸館岡村吉衛門氏及び工芸研究生、研修のため来館。
- 17日 県文化課長、那覇市文化課長らが園比屋武御嶽教材石移管手続きのため来館。
茨城県議一行来館。県農林土木部上原氏一行来館。
- 18日 保安協会による電機設備点検。
- 19日 茨城県議一行来館。国際交流課一行来館。
- 20日 家譜研究会渡名喜明氏外8名来館。
- 21日 青森県八戸市議広田氏来館。
- 24日 アセアン東京留学生17名来館。
- 27日 第132回博物館文化講座「昆虫標本解説会」講師：東 清二氏。
- 29日 昭和60年度博物館実習始まる。(8月7日まで)
- 30日 玉城朝薫碑の石膏型が記念事業会より寄託される。
- 8月1日 当館の裏の下水道引き込み及び屋外便所施設工事入札。
- 2日 文部省初等中等教育局視学官関口修氏来館。国立社会教育研修所教務課長福富留強氏来館。
- 4日 北谷杉の子会一行23名来館。
- 6日 台湾学術文化交流団中華民国中央研究院近代史研究所、研究院王璽氏外8名来館。
- 7日 沖縄郵政管理事務所調査官渡久山長靖氏は切手図案調査のため来館。

- 8日 琉球新報社安次嶺昇氏、琉球文化社大城精徳氏はシーサー展の資料借用の件で来館。大谷女子大学橋本氏は染織・服飾調査で来館。
- 9日 大中町老人クラブ10名来館。
- 11日 第133回博物館文化講座「民具教室」講師：上江洲均。
- 17日 第134回博物館文化講座「拓本教室」講師：崎間麗進氏、又吉真三氏。
- 18日 自然標本同定会。
- 23日 第135回博物館文化講座「紅型教室」講師：藤村玲子氏（25日まで）。
- 27日 鹿児島女子短期大学山下欣一教授来館。
- 30日 国際交流課一行来館。
- 9月4日 毎日新聞社那覇支局長吉田健治氏来館。
- 8日 第136回博物館文化講座「南部のグスクめぐり」講師：知念勇。
- 9日 崎間麗進氏、那覇市教育委員会依頼の梵鐘採拓のため来館。
- 14日 博物館講堂に保管のピアノを那覇高等学校に移管。
- 19日 ブルネイ青年指導者20名来館。
- 24日 開発庁振四下野課長が行政視察のため来館。
- 10月1日 琉球大学男子寮跡の不発弾撤去のため午後1時より閉館。
- 5日 観宝堂・吉戸直氏より「朱螺鈿小卓」一卓、「黒漆螺鈿菓子鉢」一鉢寄贈。
- 6日 崎間麗進氏外2名が那覇市教育委員会の依頼により厨子甕の調査で来館。
- 8日 八重山博物館館長坂名城泰雄氏来館。
- 10日 中国の文化交流団張明華氏外4名来館。
- 15日 群馬県議・栃木県議一行来館。
- 18日 日本生命財団の猪口昭二氏、藤田良一氏、千地万造氏が図録作成のうちあわせのため来館。
- 20日 国立歴史民俗博物館湯銭隆氏来館。崎間麗進氏外3名那覇市教育委員会の依頼で石碑の拓本をとるため来館。
- 22日 グスク展準備のため休館。（31日まで）
- 23日 屋富祖スエ氏より着物2領寄贈。
- 30日 大阪在の渡口加一氏より厨子甕12基寄贈。
- 11月1日 特別展「グスクグスクが語る古代琉球の歴史とロマン」開催（12月1日まで）。トム大城孝永氏より写真、地図など寄贈。
- 2日 「グスク展」のシンポジウムが午後2時よりRBCホールで開催。
- 3日 首里文化祭。
- 7日 福島県知事一行来館。
- 13日 鳥取県知事西尾邑次氏外2名来館。
- 14日 昭和60年度沖縄博物館協会研修会を久米島で開催。（15日まで）
- 16日 「グスク展」展示資料解説会。

- 17日 北海道立近代美術館学芸部長武田厚氏来館。
- 19日 埼玉県立博物館館長柳田敏司氏、財政課長山内宏二氏、学芸課長大友氏が企画展の打ち合わせのため来館。
- 28日 アジア会議代表7名来館。
- 12月3日 燻蒸及び展示替えのため休館。(11日まで)
- 12日 教育庁文化課、厨子甕調査のため来館。
- 17日 文化庁美術工芸課技官中村順氏来館。
- 18日 東京国立科学博物館館長諸澤氏来館。
- 22日 琉球新報社記者志堅原郁子氏が「博物館巡りシリーズ」取材のため来館。
- 26日 琉球大学西村貞雄教授が園比屋武御嶽の彫石の調査のため来館。

昭和61年

- 1月8日 円覚寺の鐘の吊具の錆止めをする。
- 9日 沖縄県教育委員長翁長助裕氏が文化施設巡視のため来館。
- 25日 文化庁記念物課長田村誠氏、主任調査官桜井信夫氏来館。
- 28日 不発弾処理のため臨時休館。(午前中) 中国版の琴の楽譜が興陽会長棚原靖子氏より寄贈。
- 2月3日 沖縄グラフ、RBCテレビが資料撮影。
- 10日 「大嶺薫コレクション展」準備のため休館。(17日まで)
- 17日 西友の企画展のための資料積み出し。
- 18日 特別展「大嶺薫コレクション—美術工芸の美を求めて—」開会(3月16日まで) 中華人民共和国駐日大使館一等書記官(文化担当)耿墨学氏来館。
- 22日 博物館友の会の1フィート運動映写会。
- 27日 栃木県文化振興財団理事山崎孝介氏が管理調査のため来館。
- 3月1日 ソロモン大学ラグビー一行25名来館。
- 4日 米軍より安里橋欄干支柱4本が返還される。
- 5日 熊本市の山崎正忠氏より「宮崎東里肇・沖縄風景絵図(卷子装)」二巻寄贈。
- 6日 那覇市の大城陽三氏より安里橋欄干支柱が寄贈。博物館友の会よりロビーのロッカー2個、寄贈。
- 7日 西原町の池永倫明氏より「王文燁の書」一巻寄贈。
- 13日 昭和60年度博物館協議会開催。
- 17日 「大嶺薫コレクション展」の後かたづけ及び展示替えのため休館(21日まで)。
- 22日 米国の歴史家ジョージHカー氏来館。
- 23日 中国大使章曙氏、公使鄭鴻華氏来館。
- 25日 展示検討委員会開催(自然史)。
- 26日 博物館友の会理事会。
- 27日 展示検討委員会(考古)。

28日 展示検討委員会（歴史）。

30日 展示検討委員会（民俗）。

31日 八重山博物館の新城剛氏、石堂徳一氏来館。

当館関係条例規則(抄)

○沖縄県立教育機関設置条例(昭和57年5月15日) 条例第24号)

最終改正 昭和53年3月29日条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を取集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(昭和47年5月15日) 教育委員会規則第2号)

最終改正 昭和61年3月31日教育委員会規則第1号

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関すること。

- (2) 公印の管守に関する事。
- (3) 施設設備の管理に関する事。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5) 博物館協議会に関する事。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関する事。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関する事。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関する事。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関する事。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関する事。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関する事。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関する事。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関する事。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則(昭和47年5月15日 教育委員会規則第13号)

〔沿革〕 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに分布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備(備品を含む。以下同じ。)を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておくなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法(昭和23年法律第186号)第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第7号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日

(3) 慰霊の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第5陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号に一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

(1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの

(2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの

(3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの

(4) 社会教育上不相当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和53年 9 月28日教育委員会規則第 5 号)

この規則は、公布の日から施行する。

第 2 号様式 (第11条関係)

博 物 館 資 料 寄 託 申 請 書		昭 和 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿		
申請者		
住 所		
氏 名		㊤
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。		
記		
1	種 別	
2	作者名	
3	作品名	
4	製作年月日	
5	附属品	
6	資料の所在地	昭 和 年 月 日 から
7	寄託期間	昭 和 年 月 日 まで

第 1 号様式 (第11条関係)

博 物 館 資 料 寄 贈 申 込 書		昭 和 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿		
申込者		
住 所		
氏 名		㊤
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。		
記		
1	種 別	
2	作者名	
3	作品名	
4	製作年月日	
5	附属品	
6	資料の所在地	
7	時価見積額	
8	寄贈の理由	

受 諾 書	㊤
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則 (昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号) 第11条第 3 項の規定により返却されません。	
昭 和 年 月 日	沖縄県立博物館長

第3号様式 (第11条関係)

博物館資料受託承認書		昭和	年	月	日
殿		④ 沖縄県立博物館長			
昭和	年	月	日	付付け申請のあった博物館資料の寄託については、下記により受託します。	
記					
1	種別				
2	作者名				
3	作品名				
4	製作年月日				
5	附属品				
6	受託期間	昭和	年	月	日から
7	備考	昭和	年	月	日まで

第4号様式 (第18条関係)

博物館施設使用許可申請書		昭和	年	月	日
沖縄県立博物館長 殿		④ 申請者氏名			
		電話			
下記により貴館施設を使用したいので、許可して下さるようお願いいたします。					
記					
1	使用者	団体名	及び	印	職業 ()
2	使用目的	代表者名	住所	電話	
3	使用する施設	1 ホール	2 臨時陳列室		
4	使用する日時及び期間	自：昭和	年	月	日 午 時 分 ()
		至：昭和	年	月	日 午 時 分 日間
5	予定参加人員	人			
6	その他必要な資料 (プログラム等)				

許可書	
月 日 付申請の () 使用の件、申請どおり許可します。	④
昭和 年 月 日	沖縄県立博物館長

○沖縄県立博物館協議会規則(昭和47年10月2日)
教育委員会規則第29号)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行なうために必要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立博物館収集資料の査定要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、沖縄県立博物館で収集する資料の査定に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要綱において、査定とは収集資料を価格をもって評価することをいう。

(委員)

第3条 沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という）は、収集資料の査定の適正を図るため、次に掲げる条件を具備するもののうちから査定委員若干名を委嘱する。

- (1) 収集する資料について学識経験を有するもの
- (2) 人格が高潔で、かつ、公正な判断ができる者

(任期)

第4条 査定委員の任期は、1年以内とする。ただし、教育長が必要と認めた場合は、更新するものとする。

(任務)

第5条 査定委員は、収集資料について相互に協議し、適正な査定を行い、その結果を査定書により沖縄県立博物館長（以下「博物館長」という）に提出しなければならない。査定委員は、互選により委員長を選出する。

(資料の調査研究)

第6条 博物館長は、購入予定又は寄贈申し込みのあった資料について、あらかじめ所有者から必要な期間寄託を受けて調査研究することができる。

第7条 この要綱に定めるもののほか収集資料の査定に関し、必要な事項は、博物館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和60年3月30日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例(昭和47年5月15日
条例第37号)

最終改正 昭和59年3月31日条例第13号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の徴収)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和59年3月31日条例第16号抄)

1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。

2 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

別表第1(博物館の入館料) (第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	100円
大学生及び高校生	50円
中学生及び小学生	20円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖繩県立博物館

沖縄県立博物館年報No.19 (昭和60年度)

昭和61年7月30日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 沖縄県那覇市首里大中町1の1

〒903 TEL: 0988-84-2243

印刷 文進印刷株式会社

住所 沖縄県那覇市上間567

TEL: 0988-55-2323(代)